

報道関係各位

羽田空港着航空貨物を鉄道で国内へ輸送 モーダルシフトに向けたスキームを構築

郵船ロジスティクス株式会社(代表取締役社長：岡本宏行、以下「郵船ロジスティクス」)と日本貨物鉄道株式会社(代表取締役社長兼社長執行役員：犬飼新、以下「JR貨物」)は、東京国際空港(以下「羽田空港」)に到着した輸入航空貨物の国内配送に鉄道を使ったスキームを構築し、2023年10月からサービス提供を開始しました。

リードタイムが短い国際航空貨物の国内輸送は、これまで鉄道を利用するという選択肢は少なく、羽田空港に到着した輸入航空貨物はトラックに積み替えて輸送していました。鉄道輸送はトラック輸送と比較して料金や輸送時間、また鉄道コンテナへの積み込み時間や作業人員確保などが課題と考えられ、航空貨物におけるモーダルシフトの実現は難しいものでした。

この度、郵船ロジスティクスとJR貨物は、東京国際エアカーゴターミナル株式会社の協力の下、何度もトライアルを重ねながら、羽田空港到着の輸入航空貨物を鉄道コンテナに積み替え、国内配送するスキームを構築し、2023年10月からサービス提供を開始しました。羽田空港は成田国際空港と比較してJR貨物の駅が近いという地理的優位性を生かし、輸送距離や貨物量などの条件によってはトラックでの輸送と同等の時間、料金での手配を実現しています。環境問題や2024年問題への対応が求められる中、鉄道輸送はその両方にアプローチできるソリューションとして、お客様の選択の幅を広げます。

郵船ロジスティクスおよびJR貨物は、お客様の大切な貨物を安全かつ確実に輸送するとともに、環境問題等の社会課題解決に全力を尽くし、お客様に最適なサービスを提供してまいります。

【主なメリット】

- ・トラックドライバーの減少や高齢化に加え、2024年問題への対応も迫る中、今後中長距離の輸送において、ドライバー不足や輸送料金の上昇などが予想されます。貨物列車1編成の輸送能力は10tトラック約65台分に相当し、大量輸送機関として労働力不足に対応できます。
- ・貨物列車のCO2排出量は営業用トラックの約1/11、内航海運の約1/2との試算があり、CO2排出による気候変動をはじめとした環境課題の解決に貢献します。
- ・羽田空港から東京貨物ターミナル駅は車で20分ほどと近く、また鉄道の定時性により、安定した輸送サービスを提供します。

【鉄道輸送の様子】



<郵船ロジスティクス株式会社について>

海上・航空貨物輸送、倉庫・配送サービス、サプライチェーンマネジメントをグローバルに提供するサプライチェーン・ロジスティクス企業です。世界47の国と地域に680以上の拠点ネットワークを展開し、2万5,000人以上の従業員が多様化、高度化するお客様のご要望に合わせて最適なソリューションを提供しています。

ESGを経営の中心に据え、2050年までにお客様に提供する全サービスのネット・ゼロエミッション化を目指し、それに向け2030年までに郵船ロジスティクスグループの温室効果ガス（Greenhouse Gas）排出量を45%削減する中期目標を設定しています。

ウェブサイト：https://www.yusen-logistics.com/jp_ja/

<日本貨物鉄道株式会社について>

全国に広がる鉄道ネットワークを生かした貨物鉄道輸送を行っています。貨物鉄道は一人の運転士で一度に大量の荷物を運べるなど労働生産性が高く、優れた環境特性を有した輸送モードです。特に中長距離輸送においてその特性を発揮し、近年深刻化している労働力不足問題の解決にも貢献できます。今後も鉄道を基軸に、お客様にとって最適な物流ソリューションを提供する総合物流事業を推進していきます。

ウェブサイト：<https://www.jrfreight.co.jp/>

以上